

5 月度 例会 個人 山行報告書		報告者	佐溝直彦	参加 メンバー	CL 油井武 SL 佐溝直彦 他メンバー20名 (別紙)
		報告日	5/20		
山城	奥秩父南部山地	山行日	016年 5月 15日 (日) ~16日 (月)		
山名	茅が岳 (1704m)				

山行目的	新緑の山・歴史の山 (深田久弥) を楽しむ	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	-----------------------	--------------------

配布先	ルート図 (地図を見て正確に)
総会参加数	
山行: 1	
リーダー	
原紙:	
会事務局	

ルート図 (地図を見て正確に)

1/2.5 万地形図: 至葦崎 IC

5/15 日 曇り後晴れ
刈谷発 5:10~葦崎 IC~記念公園登山口 8:45
(登山タイムは3班の実績)
登山開始 9:27~林道 9:57~女岩手前 10:42~
女岩のコル (稜線) 11:35~山頂 12:08
下山開始 12:45~1300m 地点 13:28~林道
14:05~登山口 14:25。蓼科山荘へ移動。
(散策組2名は女岩までの往復)

5/16 日 晴れ後曇り
(登山グループ18名)
(蓼科山荘発 9:00~白駒池 P9:40
高見石への登山開始 10:02~高見石小屋 10:40
下山開始 11:13~白駒池・白駒荘 11:45~白駒
池 P 12:02
(ソバ打ちグループ4名)
山荘の工房でソバ打ちに挑戦し・食した、
13時半 全員 湯川温泉河童の湯
14時半 解散・各車帰路に着いた

〈山行報告〉 過去の5月例会のテーマは残雪の山であったが、今回は「新緑と歴史の山を訪ねる」として深田久弥終焉の山を選んだ。人気の山で9時頃のPはほぼ満車状態。早速、深田記念公園に立ち寄り久弥を偲んだ。私用で今日の登山を断念したWさん夫妻を除く20名は滴るような新緑の穏やかな山道を進み、女岩手前で一本。これより上は岩混じりや落ち葉の積もった急登になるのでエネルギー補給し、気合のスイッチを入れて3班に分かれて頂上を目指す。(散策組はここで引き返す) ゆっくり歩を進め1ピッチで稜線のコルに着く。望めるはずの金峰や瑞牆は雲の中で残念。稜線の山道を少し行くと「久弥終焉の碑」がひっそりと建っている。心の中で合掌しそのまま進むと岩角やロープを掴んでよじ登る箇所もある、深い呼吸を心掛けてポレポレとふと振り返ると運よく雲上に富士が姿を見せてくれた。辛い登りを可愛いコイワカガミが慰めてくれている。程なく全員元気に山頂へ到達、所要2時間40分と上々のペースであった。眺望は目の前の金ヶ岳のみで八ヶ岳連峰・南ア北部の山々は全て雲の中で、又の機会に期待しよう。写真撮影や食事ですっきりと一時を過ごす。下山ルートは明るい尾根の急な土道であるがストックを有効に使用し乍らの安全歩行、春ゼミの合唱の中、新緑にツツジが映える山歩きが出来ると幸せを感じ乍ら下山した。今回リーダーの研究課題は①血中酸素濃度を低下させない歩行ペースと呼吸法の実践②山中でのトイレ対応策(隠し布)の試行でしたが一応の成果あり今後の

例会にもつなげたい。2日目の高見石ミニ登山は天候に恵まれて北八つの雰囲気味わうことが出来て良かった、アスレチック気分で登った岩に座り白駒池を見下ろし乍ら浅間等の山々がガスに見え隠れする眺望を楽しんでいると時の経つのを忘れこの場を去り難い気持ちになった。(佐溝 記) ここで一句、一首 **白駒の池面に流る 五月雲** (油井 詠)
混ぜ捏ねも、延しも切りも初めての極太蕎麦は新緑の味 (渡辺勝 詠)

〈リーダー所見〉 深田久弥の終焉の地茅が岳を訪ね何故頑健な彼が68歳という若さで逝ってしまったのか福井さんの事と考え併せてその謎に迫るだけでなく彼等が残した教訓は何であったかを考えるよい機会となった。今回メンバーの協力を得て歩行中の血中酸素飽和度や標高差から一定の答えを得たが、結論は「如何に頑健だとしても年には勝てない身の丈に合わせよ」という事ですね。

《フリースペース》

深田記念公園の碑の前で
(百の頂きに百の喜びあり)

確認 (リーダー)	油
	05/20
	井
作成 (報告者)	佐
	5/20
	溝

参加者名簿・・・22名

CL 油井武 SL 佐溝直彦

(会員メンバー19名)

浜島弘一 岩崎芳彦 青山武 不破孝浩 深津博也 渡辺勝利 三矢十三世 渡辺育子 岡田吉枝

竹内幹雄 津田廣一 藤田勝啓 上田正博 浅田由徳 天野広 金子清 町田修

(ゲストメンバー3名)

津上吉五郎 上田伸江 町田明美

CL・SL よりお礼

車を出して頂いた方・運転や交通費の清算もご協力頂き有難う御座いました。

参加者の方・色々役割分担してご協力頂き有難う御座いました。

多くの方から結構な差し入れ品を頂き有難う御座いました。

持越した品は5月末のやまびこ祭と8月の樫の木会例会へ差し入れさせていただきますのでご了承下さい。

お蔭様で楽しい山行が出来ました・CL・SL から心より感謝申し上げます。

(茅が岳を振り返って・・・CL,SL のコメント)

深田久弥を理解するため例会の前に「百名山の人」田澤拓著を読みました、頑健で百戦練磨の豊富な登山経験のある68歳の久弥がああ地(1600m)でなぜ思いがけなく逝ってしまったのか?の疑問が残ったが今回我々(高齢者)の下見山行時の血中酸素濃度低下の気配を体験して「年齢」が大きな危険ファクターの1つであろう・と納得しました(故福井さんの突然の死を知っているから尚更)事前の体調の整え、準備運動、適切な歩行ペース、エネルギーや水分補給など、の基本を忠実に実践していく事の重要性を再認識しました。

会計報告(交通費や温泉等含まず)・・・会計担当 佐溝 会計監査は上田正博氏

収入(会費): 168,000円 <<一人当たり男性(17名)8,000円 女性(5名)6,400円>>

支出: 167,488円

内訳 宿の支払い分・・・163,388円

持ち込み品(ツマミ)・・・4,100円

領収書明細は佐溝が保管していますのでご質問のある方はお知らせ下さい

残金: 収入-支出=512円

残金の処理はCL・SLの雑費(トイレ対策試供品の補助)にさせていただきますのでご了解願います。

おもてなしの宿

以上ご報告します

ソバ打ちに挑戦

